八月廿二日夕刊

常磐毎日新聞

日刊

定價一部金貳錢　月ノ金五拾錢　郵稅五厘
廣告料　五號十二字詰一行金五拾錢
日曜祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　中崎　茂
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所　常磐毎日新聞社　電話六二〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社

商店知識

効果的な窓飾の陳列

ある履物屋さんではウインドウ陳列は專らこの店の職人がやつてゐて頗る効果を擧げてゐる、この職人は長いこと此の店につとめしがも研究心向上の多いところから平常店の客や品物の動きに對して細心の注意を拂つてゐるため、そのウインドウ陳列もなか〳〵うまいものである、もと〳〵この附近の客にはたいした上物高級品は出ないのだから徒らに派手な陳列でもいけない、結局この店のお客にぴつたりするものでなければならないといふ、その故何ります、だからその客に向くやうな陳列が大切と思つてゐます、殊に注意せねばならぬかと思ふ點は急激に陳列品を取替へることです、徐々と目につかぬやうにしながら取替へるやうにしてゐます

ノート

夜虫などが耳の中へ飛びこみ出せないで困ることがありますがその時は耳を光りの方に向けますと出て來ます

處の陳列が見て來てよかつたからといつて早速應用した所で効果はなく長い年月研究心を以て實勢に當り實際に調査統計してゐる者が陳列するに限るとある、當の陳列係りは語る

『私の店には私の店獨特の店色があり、お客があ

○明日の献立○

【朝】煮豆—富貴豆
【晝】魚田樂—小はだかくし田樂
【晩】にしめ—揚ちくわはす

私がこんな風な物だらうと思つて陳列した品がその日からどし〳〵出る時の嬉しさつたらありません』

靜けさをのむ

高木風郎

熱病患者が水を嚥む樣に夜の靜けさをぐいぐいと嚥む

ごみだらけな煙筒でもあるかの樣にくしんを淨めたくて、淨めたくて

わしはぐいぐいと嚥む、夜の靜けさを

五齡蠶の樣に透き徹りたいのだ

サした晝の餘塵を早く、清サンしたいのだ

嚥む、ぐいぐいと靜けさを嚥む

煤の中から黃金佛を洗ひ出す樣に

夜のわし——眞實のわしを洗ひ出す爲に

のむ、のむ、のむ

あゝ此靜けさの醍醐味よ

地相家相百般事人鑑定

地番　高島易斷所
前ノ堂　野澤定象
平町

八月廿三日辛酉六白先負除く

【一白】骨折りて功の無き不平の件多げれど忍耐して進む時は後日利を得る【二黑】營業繁忙萬事吉なれど水火の難と書附に注意【三碧】古きを捨て新企の念起るも金苦の爲めに中止となるの凶日なり【四綠】金談緣談共に吉唯だ酒色の爲家內に口舌を起さぬ樣【五黃】金融の良き日唯だ目上賢者と衝突を起さざれば吉なり【六白】逆氣澁滯の日なれば萬事控目か吉進むに凶なり【七赤】金談緣談共に吉取引上遠行すると雖も目上と衝突を起す勿れ【八白】我望事の爲め奔走すると雖も吉か凶に變ずる事あれば謙遜以て吉【九紫】病氣怪俄等に付て金苦の生ずる事あれば萬事控目が吉

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平町南町
電一〇七

專門
產婦人科
花柳病科
◎入院隨意
井坂醫院
平町田町　電話五五九番

貸切の●●●
御用命は!!!
獅子吼(シシク)(四四九)ノ勢(イキホイ)デ
眞先(マッサキ)ニ……(マッサキ)
三九二(ミクニ)タクシーへ!!!

醫院
診療科目
○內科　○外科　○整形外科
○腦外科　○皮膚科
○婦人外科　○性病科
○一般外科
諸橋外科醫院
醫學博士　諸橋鐵彌
平町新川町廿七(電話四六四)
開業
入院室
手術室　完備

貸家
此度裏手に新築移轉する事になりました。就きましては從來の店舗をお貸し致しますから、御希望の方は御來談下さい。如何なる商賣にも適します。
平町四丁目三九
新妻文吾
◇在庫品整理の爲め大廉賣致します。

吸入用酸素
純度99%
度量衡
モノサシ
マス
ハカリ
計量器
体溫器
寒暖計
◎秤(ハカリ)ノ取緒(トリヲ)・垂糸(タマイト)・修繕(トリカヘ)致シマス
開內藥局
電話四〇番
◎寫眞材料一式販賣致シマス

潮流の關係から 俄然、鰹群來遊し

豊間沖一帶恰も戰場の觀

▽……大漁に相塲下る

金華山沖合に游泳中の鰹群は潮流の關係から再び石城郡沖合に移動し來り豊間沖八九浬の附近に迄接近したので目下同沖合は各縣の漁船密集し恰も戰場の如き騷ぎを演じ多きは一隻六七千尾を漁獲して居るので水揚相場は六七百匁位のが三十錢から四十錢と下り値を見せて居るが濱は時ならぬ活氣を呈して居ると

郡大會出塲 平青年選手

詮衡の結果決定

平町青年團にては昨夜午後七時よりマルトモホールに於て來る九月十日磐中グランドに於て開催される郡下青年團對抗体育大會の出塲選手詮衡會を開き左の如く決定したが競技部は來る二十四日より來月六日迄第三校庭に於て石田訓導コーチの下に猛練習を行ふと

△競技部

（百米）三丁目柏原武三　（四百米）胡摩澤豊島豊　（千五百米）柳町猪狩廣太　（一萬米）柳町野口一　（砲丸投）白銀花澤行雄　（走高跳）古研佐藤兼助　（俵擔）柳町中條清　（千米端典繼走）三丁目柏原

△武道部

（劍道）（材木町遠藤秀夫　十五丁目高梨五郎（柔道）長橋椎根保美　鎌田阿部兼千代（補員）白銀花澤行雄（相撲）柳町鈴木又四郎　柳町佐久間芳夫

胡摩澤豊島豊　南町山野邊二郎　掻槌小路橋本正雄　（補員）南町本間鐵男　柳町佐藤弘　柳町佐久間芳夫

研究發表

教育部會決定

既報東部聯合教育部會では來十一月十一日平一第小學校に於て開かれる總會當日の研究發表者一名を募集中であつたが本日申込者六名の内から審査の結果小川校訓導黑木喜一氏の「農山村教育建設」と決定した

庭球選手出發

磐中の小川川隅、宮川大谷及び平商の安島木田塚本本田の四チームは來る二十四日より仙臺市東北學院に於て開催される關東北中等學校庭球大會に出塲の爲め明朝平發五時四十三分にて各係教諭引卒の中に出發すると

山浦主任赴任

平鐵道治療所主任から國府津鐵道治療所主任に榮轉した山浦采女氏は明廿三日午前九時一分發列車で赴任する

相塲騰貴を見越して

製炭材料買入に

當業者が狂奔し

官林の拂下五割方增加

濱三郡下の木炭相塲は夏枯れ期にも拘らず依然として高値を呼んで居る爲め今冬需要最盛期の相塲沸騰を豫想され當業者は製炭材料立木の買入れに狂奔し平營林署だけでこの拂下約六萬圓に達し前年に比し五割增加と云ふ景氣の好さを見せて居る

梨果上出來

十萬貫も增收

石城郡產出の果實中の王者の位置を占め長十郎其他の梨果の走りは此處數日中に市塲に現れ今月の末には出廻の最盛を見るが本年は大豊作を豫想され昨年同期の產額五十萬貫に加に突破して六十萬貫以上確實と見られ十萬貫の大增加は近年にない稀らしい收獲であると

内鄕衛生映畫

石城郡内鄕村役塲では來る廿五日午後六時より高坂小學校に於いて傳染病豫防の映畫會を催すと

町費支拂日を一定

毎月一日十一日廿一日に

平町役塲では今回事務の能率を上げる爲めに一般町費の支拂日を一日、十一日、廿一日の三日間と決定近く各區長を通じて全市に通知される筈

同文書院學生講演

平町役塲及び青年團修養部にては來る二十五日午前九時より第三小學校講堂に於て中華民國上海東亞同文書院學生講演會を催すが當日の演題は左の如くである（支那排日運動の實相）千枝陸郎（現代支那婦女子に就いて）同人（支那國民性）佐藤金藏（赤道を越えて）同人

平町人事

回出生

△紺屋町五一　佐藤安信氏二男幸男

回婚姻

△福岡縣三潴郡川口村字津古賀正記（三三）平町紺屋町六七　山崎直子（二九）

△手摑一一四　菅原力（四二）北海道美國郡美國町船間一二〇　荒川サダ（一一）

市原醫院
平町田町
電話一一四番

旭硝子株式會社製品
赤菱印
板ガラス
製造販賣
◆菓子壜
◆硝子食器
其他各種
松崎硝子製作所
平町新川町（電話一四二番）
◇支工塲　仙臺市榮町（電話五九七番）

難波醫院
醫學博士　難波睦
內科一般
平町大町新川端
電五〇二

愈々舊盆も近づきました御新佛の戒名入提灯を御注文下さい

提……
角形
經六、〇デシメートル　一對房付十五圓
五、三同　九圓五十錢
四、五同　六圓八十錢
四、二同　五圓五十錢
三、七同　四圓八十錢
三、四同　三圓二十錢

灯……
瓜形
經四、六同　三圓五十錢
四、二同　二圓五十錢
三、六同　二圓

尙御好みにより値も品も色々に調製致します。
御話下されば早速見本持參御伺致します。

平町四丁目
スガノヤ提灯店
電話九五番

幽靈郵便物が依然多い

大部分は……男女間の通信

平郵便局日々の郵便物には差出人所書の不完全のため還付不能の郵便物が日に四五通位づゝあるがこれ等は郵便局配達係の脚の戰士連が足が棒になるまで驅けづり廻りそれでも還付不能の場合には局員立會の上開封され燒却されるのであるがこの頃暑さのため之等還付不能の郵便物がめつきり激增した

これ等のうち殆ど全部は男女間の通信とみて差支はないがその最も熱烈なものに女から男へ「父も母も今東京へ行つて留守です家に居るのは弟と私だけですから夜にでも遊びに來て下さい私の心は言はなくても判つてゐるでせう」てな時節柄あついものも交つて居ると

性源寺再建漸く

九分通り進捗し

來る廿五日假入佛式

平町長橋町性源寺の再建工事は起工後二年を經て漸く九分通りの進捗を來したる爲め諸經費の決算報告を兼ね來る廿五日午前九時より檀徒總會を開き次で假入佛式を執行檀徒各家先亡の爲め慰靈供養會を修行すると

納稅組合

積立金横領

管理者召喚

平町搔槌小路五十一納稅組合管理者小野鶴松は目下平署に召喚嚴重取調中であるが事件の內容は組合の積立金横領にあるらしいと

整理の後から

未納がかさむ

罪金四千五百餘圓

平檢事局に於ける罰金未納額は間斷なく整理してゐるにも拘らずあとから〳〵と嵩み現在二百餘名四千五百餘圓の多額に上つてゐるが未納者は農村に多いので舊盆前には必ず納付する樣此程嚴重なる督促狀を發した

職員室に賊が忍入

平第二校で

昨夜深更平第二小學校職員室に一名の賊が忍び入り机を殘らず荒し廻つた事今朝當宿の草野訓導が發見直ちに平署に届け出たが幸ひ被害としては佐藤信義訓導の運動ズボン一着のみであつたと

サーベル下げて

卅有餘年

平署管內の最古參

宇南山氏退職

平警察署赤井駐在巡査宇南山英三郎（五九）氏は今回家事都合により辭職し卅有餘年間の巡査生活と別れを告げる事になつたが氏は明治卅五年一月本縣巡査を拜命し福島署を振出しに各署に轉勤、大正十五年七月卅一日平署に轉じてより十年間に及び同署最古參者であり今回の辭職を各方面より惜しまれて居ると

酌婦誘拐

發覺し捕る

東京市向島區寺島七丁目八六山口都四郎（五四）は東京市深川區石川島二一四店綱三四郎妻マサ（五八）と共謀しマサの長女フヂ（一八）が平町南町六五飲食店福見屋支店事小柳八百藏方に前借四百四十圓にて酌婦に住込んで居るのを誘拐して他に賣飛ばさんとして去る廿日マサと共に福見屋方に至り言葉巧みに連出して逃走せんとしたのを捕はれ平署で取調中であると

社寺專門に

荒し廻る少年賊

古物商の密告で捕る

岩手縣江刺郡福岡村字立澤生れ當時住所不定孝夫長男及川英夫（一七）は假名は去る廿日內鄕村御厩地內に鎭座する明神神社の赤銅屋根を窃取し平町の某古物商に賣拂つた外社寺專門に數件荒し廻つた事古物商の密告に依り發覺今朝長橋地內で平署員に檢擧された

御札賣場棟上

石城郡赤井村闕伽井嶽藥師では豫てより工費三百餘圓で御札賣場の新築中の處明廿三日午前十時より管長旭純英師を迎へて盛大な棟上式を擧行する

志賀君歡迎會

石城郡好間村出身磐中第十五回卒業生志賀秀夫君は目下南洋ボナペ島に於て活躍中であるが此程歸省されたので同級生一同は同君の歡迎會を兼ね來る二十四日午後一時より四倉海岸に於てクラス會を催すと

平職業紹介所報告

回 人を求める方

△看護婦見習　二三名　十五六才　尋卒　給料面談（平町某）

△外交員　五十才　尋卒　給料面談（双葉郡某）

△煉炭製造人　十九才　尋卒　月十圓（東京市某）

回 職を求める方

△雜夫　四十一才　尋卒　給料面談（平町某）

△職工　二十三才　早稻田工手半退　給料面談（好間村某）

△事務員　二十三才　工手卒　給料面談（好間村某）

△店員　二十五才　尋卒　給料面談（平町某）

NHK明日のラヂオ

仙台放送局　廿三日

氣豫報

今晚も明日も北東の風晴雲半す

今晚の部

▼後六、〇〇 子供の時間 長唄「五郎」唄 天原とし子　高橋とく代　外

▼後六、二五「傳說と史蹟を探ねて」（吉備高島に關する傳說）永山卯三郎

▼後七、三〇 講演

▼後八、〇〇 俚謠

▼後八、三〇 尺八「鶴の巢籠」（親鶴）飯倉樂童（子鶴）飯倉豐童

▼後九、〇〇 連續物語「ひとりしづか」（二）（淺野壽惠子作）夏川靜江

▼後九、三〇 時報ニュース 氣象通報 番組豫告

明日の部

▼前六、三〇 夏期佛語講座（十四）井上源次郎

▼前七、〇〇 ラヂオ體操

▼前七、三〇 夏期英語講座（三の三）テキスト 山田巖

▼前九一、〇 料理獻立「鷄肉の附け燒き」松本良雄

▼前一〇、三〇 家庭講座

▼御〇、〇五 滿洲より

▼後二、〇〇 夏期講習「人形玩具の描き方」（三）西澤笛畝

▼後六、〇〇 子供の時間 お話「白虎隊」葦名道達

▼後六、二五「傳說と史蹟を探ねて」（九）

▼後七、三〇 講演「衣食住の資源」大阪市立工業試驗所長 理學博士 高岡齊

▼後八、〇〇 ラヂオドラマ「樂しき夏の夜」（佐藤春夫原作 深井史郎作曲）

▼後八、四〇 掛合噺「心力萬才」海老一海老藏連中

▼後九、〇〇 連續物語「ひとりしづか」（終）（淺野壽惠子作）夏川靜江

美味！芳醇！
宗正らひた
山崎合名會社
電話一〇番

玉炭
石炭
コークス
平驛前
阿部石炭商店
電話三七番

鮮血雙刀錆

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴演
山本英春畫

第二十二回　血に飢ゆる村正

千本松原の仇討

一足後へ退つた長船の甚九郎、左の手に脇差を持つて、四邊に目をつけ油斷なく

甚『コレ段八どん、お前にいつて聞かせる事があるからチョッと待つてお呉んなせえ、外の事でもねえが、其方が國に居る時分、同じ下野國柳田の郷士柳田十平次政晴、妻の萩野を利根川端で切つて捨て、其儘故郷を離れて此の國へ來た事は確かに覺えがあるべき筈、實は其の夫婦の間に出來た菊名と言ふ今年十三の小娘が、親の敵と其方を尋ね、其の夫婦の爲めには現在の母親おきたといふ老母が、六十餘りでありながら、孫の手を引いて當國へ來て、兼光といふ人を賴んで、私の許へ懇意を結び、其方の舊惡が漸く分り、祭禮の賭場の歸り掛け、此の松並木まで連れて來たのは、二人の者に討たせる爲め、處も名に負ふ千本松原討つ討たれるは時の運、覺悟を定めて尋常に此處で勝負をしてやつたら、お前も立派な男の魂、此の長船の甚九郎も緣あつて知り合となつた前のこと、死んで殯れた其の後は、骨は捨つてやる程に、末練な心を出さねえで常尋に覺悟しなさるが宜い……兼光殿――其方々をお連れなせえ』

と呼ばはつた、之れを聞いた孫左右門尉兼光は先に立ち、其の後に續いて仙吾村正、並んで菊名の手を引いたる老母おきた、襷鉢卷甲斐〳〵しく、細身作りの一刀を提げたるは、村正が豫々鍛えし刀を老母おきたに與へましたので、又菊名には兼光が一尺三寸の一振を今夜の餞料にと渡しました、段八之を聞いて、思はずヨロ〳〵と蹌踉めいたがウムと足に力を入れ木の根に片足踏掛けて、八方へ眼を配り

段『オヽ如何にも貸元のいふ通り我身に確に覺のある事、今は決して隱れはせぬ茲に尋常に討たれよう、サア十平次の母親娘思ふ存分敵を討て』

と用意の一刀引拔いたる樣子、中々十三歳の小娘に四十男が討てる筈はございません、老母は一刀引拔いてそれへ進み出できた『逆緣ながら伜嫁の仇敵、覺悟いたせ』

と呼ばはりざまから斬り込むと、心得たりと暫くは、丁々發止と斬結ぶ、流石に老母は武家の出のものでございますから腕前は確に相見えます、此時村正後にあつて樣子如何にと見て居りましたが、氣短なる性質の事故堪り兼たものと見え、長い勝負をさせるは面倒と心得、氣合を計つてエイッと一聲投げたる礫は物の見事に段八の額に當り、ヨロ〳〵と蹌踉く處を、透かさず老母は段八の左肩先深く斬り込みましたから、アッといつて血煙立つてドウと倒れる、此時孫の菊名は走り寄り

菊『父樣母樣の敵』

と言ひながら子供ながらも力一ぱい、脇腹へグサと突込んだから、何かは以て堪るべき、息も絶々になつたる樣子、忽ち乘掛つて老母は孫の手に力を添へまして留めを刺しました。

スルと誰が知らしたか一の宮の松並木で敵討があると聞き傳へて、土地の者は提灯つけ、松明を灯し多人數此處へ集まつて參りました、其内に兼光より此の趣を御領主樣へお届けをすると、當國の領主左衛門尉高殿之れをお聞き遊ばして大いに御感心、兩人を召して深く恩賞を賜りました、是よりして一同兼光の許へ引取つて參り、改めておきた菊名の兩人より村正兼光、甚九郎等に厚く禮を述べる又村正より兼光並に甚九郎に對して、其の骨折りを謝しました、扨て段八の死體は約束の通り甚九郎が引取りまして、已い菩提所へ葬り、厚く回向致しておりました。

扨て老母おきた、孫の菊名は兼光始め村正等に別れを告げ故郷下野國柳田の郷へ立歸り、其後足利實の重臣松倉兵衛尉清基といふ人の次男清綱といふ者を菊名の婿と致し、足利家の家臣となつて柳田の家を再興致し、子々孫繁昌致しましたといふ事でございます、是は後のお話。

扨て村正は是よりして備前兼光の手許に居りまして悉く當國の流儀を見拔き其れより山陽道を廻り、尚四國九洲を經て神社佛閣を殘らず參拜致し、追々、日數を重ねまして京都に赴き、久し振にて堀川の國廣の許へ參りました。

花柳病科
外科
専門
木村外科醫院
自炊入院の便あり
平町五丁目橋際
電話三九〇

平新川町十九
外科
産婦人科
木村病院
電話一六四番
産婦人科
院長　木村寅次郎
內臟外科
整形外科
器泌尿科
醫學士　內木宗八

胃腸病藥の王座を占むる純漢法藥
松前家傳
靈効散（無効返金ス）
ホントに北海道で出來た靈藥が着荷致しました。今迄のは福島市內で製藥したので兎角の批評がありましたが今度のものは眞正のもので奏効確なものです。服用しなくては其の眞價が判りませんから、皆樣見本品を差上げます。御遠慮なくいらつしやつて下さい。見本品でも二日間は飲まれますから胃病腸に苦しむ方、輕病、心臟、痔疾の方は是非御試し下さい。クセにならず根治致します。小兒用の靈効散。も出來ました。
定價
試用分（八日分）五十錢
重症用（四十五日）貳圓
惱症用（廿日分）壹圓
販賣部
靈効散　地方代理店
平町古鍛冶町縣社ノ下
內藤藥舗
電話四四番

高久病院
院長　醫學士　高久忠
副院長　新潟醫學士　赤羽清
藥局長　藥劑師　佐竹菊雄
平町田町　電話五一三番
內科小兒科
耳鼻咽喉科
外科花柳病科
レントゲン科

吉田眼科病院
平神奈川　電話六八番